

芸術科

教科名	芸術	科目名	美術 I
科目の目標	文化や国際理解、豊かな心や情操の育成。美的表現力の向上、主体的かつ豊かな生き方が出来る力を養う。		
履修学年	2年	類型	文系・理系共通
単位数	1単位	履修形態	選択
教科書	高校美術1(日本文教出版)	副教材等	適宜

①学習の目標

自己表現力を高める活動を通して、幅広く文化を理解し、心豊かな生活を作り出す力を培う。

②学習内容と授業の進め方

- (1) 絵画 ア デッサン力を付け、色彩、構成、材料、用具の生かし方を学ぶ。
 イ 目に見えるものの表現・発展して、想像力や心の表現を学ぶ。
- (2) デザイン ア 様々な造形要素を理解し、どう作り上げるかを学ぶ。
 工芸 イ 意図に合わせた表現方法の工夫を学ぶ。
 ウ 工芸への関心を深め、生活への役立ちを思考する。
 エ 目的や条件を明確にした構想を練る。
- (3) 鑑賞 ア 自然や作品の中からそのよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図に迫り、自分の表現に生かす。
 イ 人間と自然、国や民族を理解し、様々な文化の特質を学ぶ。

③学習に当たっての留意点

- (1) 課題の導入を理解し、資料、作品を参考にして材料や用具を生かしていくこと。
(2) 制作を計画的に進め、最後まで集中して大切に仕上げていくこと。
(3) 自己評価したり他の作品を鑑賞したりして、お互いに高めてゆくこと。
(4) 自己表現であることを確認しつつ、自分の作品に誇りを持つこと。

④評価の観点

- (1) 関心・意欲・態度
 【関】 芸術を愛好し、芸術文化を尊重するとともに、個性を生かし意欲的、主体表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。
- (2) 芸術的な感受や表現の工夫
 【芸】 感性を働かせて芸術の良さや美しさを感じ取り、創造的に表現を工夫する。
- (3) 創造的な表現の技能
 【創】 創造的な芸術表現をするために必要な技術を身につけている。
- (4) 鑑賞の能力
 【鑑】 芸術を理解し、その良さや美しさを深く味わう。

⑤評価の方法

- (1) 完成作品をもとに課題のねらいの達成度を評価する。
(2) 制作過程での努力の姿勢、工夫の跡を評価する。
(3) 自己評価表、自評文等を参照し、評価する。
(4) 日常の学習活動への参加態度、積極性を評価する。

⑥授業計画

月	単元名	具体的な学習内容	評価の方法など(観点項目を記入)
4 5 6	油絵「自画像」	○自分を見つめ、自分を考え、自分を表現する ・人体全体から胸部、頭部のバランスをとらえ、そこから表出される表情をつかむ。 ・立体感、空間、量を考える、色の性格など、油絵の効果的な表現の工夫	学習内容の理解と積極的な姿勢、態度、工夫を作品を通して総合的に評価する。 ・課題 ・レポート ・ラフスケッチ ・作品(プロセス) ・自己評価
7 8 9 10	油絵「抽象画」	○現代絵画の理解 ・点、線、面、形の造形要素の理解 ・具象から単純化や部分分解と誇張化 ・偶然による形、自由曲線等抽象の考え方 ○造形要素(色、形、材質)の組み合わせによ	【関】 【芸】 【創】 【鑑】
11 12	アクリル画「シュールレアリズム」	○心象の世界、超現実主義的表現 ・複雑な現状の中にある自己を見つめて、その内面を表現してみる。 ・「想像・空想の世界」を自由に表現してみる。	
1 2 3	工芸 七宝焼 鑑賞	○七宝焼きについての理解と表現 ・組み立て・仕上げ ○造形活動の歴史と人間生活の文化	